

令和5年度 学校教育自己診断 集計結果分析

大阪府立三国丘高等学校 学校教育自己診断委員会

回答の分析に際しては、[1]生徒、[2]保護者のアンケート結果について A.肯定的意見の割合が 85%を超えるもの、B 否定的意見の割合が 25%を超えるもの、C 経年変化の大きかったものの3区分で行い、[3]教職員のアンケート結果については経年変化から分析した。さらに[1]～[3]で取り上げなかったものを[4]その他としてまとめた。

全体としては、肯定的意見が概ね 70%～90%前後で推移している。今後も現状維持で満足するのではなく、工夫や再考を重ね、継続・発展させていく必要があると考えられる。

[1]生徒 回答数：1年 311(97.2%) 2年 306(95.6%) 3年 291(93.3%) 計 908(95.4%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が 85%以上）

		肯定	否定
1	学校生活は楽しく、入学して良かった。	93.0%	4.7%
2	本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている。	85.0%	11.7%
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	92.4%	5.7%
6	学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。	90.5%	6.4%
11	文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している。	95.8%	3.0%
15	学校は、様々な危険防止についての指導に取り組んでいる。	85.4%	8.8%
16	生徒のプライバシーは守られている。	87.0%	7.4%
18	プロジェクタ等の映像機器を活用した授業は効果的である。	95.5%	3.2%
19	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	87.3%	8.9%
21	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	90.5%	5.6%
23	学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群) やchromebookなどのICTを活用している。	92.6%	5.4%

【分析】

例年、肯定的意見が85%を超えるのは7～8項目程度であるが、今年度は上記の11項目にのぼった。11項目のうち、初めて85%を超えた項目は2と15であった。また、全23項目のうち、この5年間で最も高い肯定的意見の割合を示した項目は18項目におよび、今年度は相対的に生徒の評価が高かったと言える。学年別に見ると2、3年生は例年と大差は見られなかったが、1年生が肯定的な回答をした割合が高いことがわかった。1年生は積極的に学校の取組みに参加する生徒が多く、それが様々な項目に反映されたのではないかと考えられる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が 25%以上）

	肯定的意見					否定的意見					
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5	
8	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。	66.9%	63.4%	66.9%	64.9%	63.0%	22.0%	23.0%	21.0%	26.9%	28.0%
9	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力をいれてほしい。	49.4%	49.0%	50.7%	51.2%	49.9%	39.3%	38.3%	36.4%	39.2%	39.3%
10	人権、環境、福祉について学習する機会がある。	86.7%	84.0%	79.2%	62.9%	62.6%	10.1%	11.5%	16.0%	29.7%	28.9%
20	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。(1・2年)又は、役立った。(3年)	43.8%	52.2%	52.3%	45.2%	48.5%	46.8%	36.0%	37.0%	44.1%	40.1%

【分析】

上記の4項目のうち、8、9、20は毎年否定的意見が25%以上となる。肯定的意見もあわせてこの5年間を見てみると例年と同じような値となっており、8、9に関しては大学受験に必要な勉強も、大学受験にとらわれない学習活動も、どちらも変わらずニーズがあると言える。20の土曜授業については、昨年に比べると肯定的意見が約3%増加し、否定的意見が約4%減少した。学年別に見てみると2、3年生は例年と大きな差はなかったが1年生が肯定的意見56.3%、否定的意見32.2%と肯定的意見が高くなっており、このことが影響したと考えられる。

10については肯定的意見が62.6%、否定的意見が28.9%となっているが、これは昨年と同じく人権HRがこのアンケートより後に実施されたことが影響したと考えられる。

C 経年変化の大きかったもの

	肯定的意見					否定的意見				
	R1	R2	R3	R4	R5	R1	R2	R3	R4	R5
4 担任の先生等、相談できる先生がいる。	77.8%	75.0%	78.8%	77.9%	84.0%	15.4%	17.8%	15.2%	15.4%	10.9%
14 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	56.7%	59.5%	60.9%	58.3%	66.3%	4.5%	8.8%	9.0%	11.2%	8.7%
21 スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	91.3%	81.8%	70.8%	73.8%	90.5%	4.1%	9.3%	13.5%	13.1%	5.6%

【分析】

4と14は、肯定的意見の値が最も高かった令和3年度よりも5%以上高くなった。「困ったときやいじめ等の状況において相談できる教員がいる」と感じることは、生徒の安心感につながる重要な要素であり、このまま肯定的意見が高く保たれるよう引き続き努めなければならない。

21に関しては、肯定的意見が昨年度より約17%上昇し、令和元年の水準に戻った。新型コロナウイルスのため約3年間にわたり中止していた海外研修を再開したことや、海外の高校生を招いての学校交流が3回実施されたことを踏まえてのことだと考えられる。

[2] 保護者 回答数：1年160(50.0%) 2年132(41.3%) 3年88(28.2%) 計380(39.9%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が85%以上）

	肯定	否定
1 お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させて良かった。	94.2%	3.7%
2 本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は、よく活かされている。	90.3%	5.3%
4 学校は、生徒が必要とする進路情報(大学・職業等)の提供など適切な進路指導に努めている。	86.1%	7.4%
5 学校生活を通じ、生徒は、将来の生き方を考える様々な機会を得ている。	87.4%	5.8%
11 文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている。	95.8%	2.4%
20 学校は、教育活動について、情報提供の努力をしている。	87.4%	8.4%
22 授業参観や学校行事に参加したことがある。	89.2%	8.2%
23 三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	87.9%	3.2%
24 土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。	87.6%	6.1%
26 学校はGoogle Workspace(classroomなどのアプリ群)やchromebookなどのICTを活用している。	96.0%	4.0%

【分析】

昨年よりも85%以上となった項目が6項目(4、5、20、22、23、24)増えた。保護者の方々が、本校の教育活動に非常に理解を示し、賛同してくださっていると思われる。4、5、23などが85%以上の肯定的意見を得たのは、生徒の将来についての進路指導が生徒だけでなく、保護者の方々にも高く評価されているからと思われる。また、26が引き続き85%を超える肯定的意見を得た。生徒への連絡事項等についてclassroomを積極的に活用しているとともに、Chromebookの迅速な配布・授業内外での使用等によってICTを効果的に活用していることが評価されたと思われる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

	肯定	否定
6 大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	45.0%	26.8%
7 大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	48.7%	32.6%

【分析】

6、7に関しては、毎年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動（SSH、SGH 含む）、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応じている。

C 経年変化の大きかったもの

		R4	R5
22	授業参観や学校行事に参加したことがある。	67.6%	89.2%
25	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	64.1%	81.3%

【分析】

22と26の肯定的意見が増加した。22に関しては昨年度も増加したが、授業公開・文化祭・体育祭等、保護者の来校の機会が増加したことが要因と考えられる。26は新型コロナウイルスの影響でできていなかった国際交流が少しずつ実施できるようになったことが影響していると思われる。

[3]教職員 回答数：40(61.5%)

経年変化の大きかったもの

		肯定的意見				
		R1	R2	R3	R4	R5
9	学校では、生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。	77.8%	84.4%	85.3%	77.8%	90.0%
16	学校では、要配慮生徒への支援が適切に行われている。	88.9%	96.9%	91.2%	77.8%	90.0%
19	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。	37.1%	21.9%	14.7%	37.0%	45.0%
21	学校経営に、教職員の意見が反映されている。	66.7%	62.5%	64.7%	70.4%	82.5%
23	学校では、各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	69.4%	53.1%	70.6%	77.8%	85.0%
24	学校では、職員会をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。	58.3%	59.4%	58.8%	70.4%	80.0%
27	学校では、生徒の活動の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	33.3%	31.3%	41.2%	51.9%	67.5%

【分析】

ここでは、昨年度と比較して大きく数値が変化した項目の中でも、特にこの5年間の水準と比べても変化が大きい項目に注目した。

9、16の肯定的意見の数値が伸びている。9に関してはこの5年間で最高の数値である。近年、様々な配慮の必要な生徒が増えていることに対して、教職員間および管理職で組織的な対応ができていていることが反映していると思われる。19に関してはこの5年間で最高の数値であるが、同時に否定的意見も55.0%と高い水準である。土曜授業が学習時間確保に役立っているかは、教職員間でも意見が分かれている結果になったが、生徒にとってどのような教育活動が適切なのかは今後も検討する必要がある。21、23、24に関しては、教職員相互及び教職員と管理職との意思疎通が十分に行われていることの表れであると思われる。27については、食堂の改修や、校舎施設各所に配置されたホワイトボードなど、生徒や教職員にとって教育環境が良くなってきていることが影響していると思われる。

[4]その他

①進路指導に関する事項

生徒回答		肯定的意見				
		R1	R2	R3	R4	R5
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	89.1%	85.4%	91.6%	92.4%	92.4%

【分析】

進路に関する項目は例年高い数値で推移しているが、今年度も昨年と同じく肯定的意見が92.4%となった。卒業生の体験談を聞く交流会や京大キャンパスガイド、阪大ツアー等オープンキャンパスの実施、研究室訪問や医学部体験など、自らの進路について考える機会が多く、生徒たちは積極的に参加していた。今後とも情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現をめざして引き続き努めるとともに、生徒が主体的に自らの進路を選択していけるよう、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行う。

②授業に関する事項

生徒回答		肯定的意見				
		R1	R2	R3	R4	R5
7	満足できる授業が多い。	76.6%	77.6%	83.2%	77.1%	81.9%
教員回答						
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	69.4%	56.3%	73.5%	74.1%	80.0%

【分析】

授業の満足度に対する生徒の肯定的意見が82%となり、この5年間で2番目に高い値となった。教員の授業改善に関する項目も肯定的意見が年々上昇し、今年度は80%に達していることから、教員がより良い授業をめざして検討を重ねていることがわかる。生徒の授業満足度が80%を超えたのはこの5年間で2回目であるが、毎年満足度を高く維持できるように務めていく必要がある。

③施設設備に関する事項

生徒回答		肯定的意見				
		R1	R2	R3	R4	R5
17	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	83.0%	80.4%	82.8%	82.7%	84.7%

【分析】

創立130周年記念事業の一環として食堂改修工事が終わり、内装が整えられたりエアコンが配備されたりしたことによって、生徒が自習したり活動したりできるスペースとなった。また、大阪府によるトイレの改修工事が進められており、校内の環境についての生徒の肯定的意見は増加している。生徒のロッカーが小さいというご意見が寄せられることが多いが、現状では下足室を拡張するスペースや生徒の荷物置き場に充てられる場所の確保が、安全上の理由から困難な状況となっている。以前と比較して大型化したものが設置されているが、何か良いアイデアがないか、引き続き経営委員会等で検討していく。

④スマートフォンの使用に関する事項

生徒回答		R4	R5
24	1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均してどれくらいですか。		
	2時間以上3時間未満	27.0%	28.0%
	3時間以上4時間未満	14.5%	12.4%
	4時間以上	20.2%	14.8%

【分析】

生徒の携帯電話の使用時間については、3時間以上使用している生徒は昨年よりは減少した。保護者の「29お子様のスマートフォン使用について、時間制限をされていますか。」の回答では、「していない」が約78.7%となっていることから、生徒の自主性に任せているご家庭が多いといえる。「時間制限をしている」と回答された中には、「リビングでの使用のみとしている」「勉強中は預けさせる」というご意見が複数あった。携帯の使用時間は生活習慣や学習時間にも関わるので、ご家庭と情報交換しながら、適切に生徒に注意を促していく必要があると考えられる。

以上